

シリーズ④ ～映画「アノソラノアオ」を訪ねて～

●問い合わせ 燕商工会議所内「はばたけ燕実行委員会」 ☎0256・63・4116（代）



▲中山麻聖さん演じる主人公の姉役として映画の中に登場します

今回は
主人公の姉「尚」^{なお}役を
演ずる
原幹恵さんから
コメントを
いただき
ました



■女優 原 幹恵さん
村上市の出身・特技は水泳

原さんは、村上出身です。現在は、フジテレビ系ドラマ「HUNTER」の女たち、賞金稼ぎや、ラジオのメインパーソナリティーなどで活躍しています。

母親代わりで家族を支える燕の女性を演じる

「燕市を舞台にした映画」というお話しを伺ったときは、新潟県出身のわたしはとてもうれしく思いました。

同郷のキャストの皆さんやスタッフの人たちと一緒にあって、この映画を通し燕市を盛り上げられるという喜びを感じました。

わたしはいつも、撮影初日には緊張をしていますが、でも今回は、同じ新潟県の皆さんに囲まれての撮影だったので、和気あいあいと収録はスムーズに進行しました。それに、子どものときから過ごしている新潟での撮影ということもあって、とても安心感がありました。

だから主人公の姉役で燕の女性を演じさせていただいた今回は、いつもより自然体で

ていいますが、うまくいくポイントの一つは、職員の意識や組織の風土であると考えられています。

組織風土を改善するためには、一人一人の職員が身近な業務を見直し、その問題点の改善に取り組むことが必要になります。

行政改革の取り組み

市では、「燕市行政改革大綱」に基づいて行政改革を推進しています。

今年度までを計画期間とする前期実施計画を着実に実施し、職員数の計画的な削減、時間外勤務の縮減など一定の効果を上げてきました。

現在、平成24年度から27年度までを計画期間とする後期実施計画の策定

『アノソラノア』NEWS

原さんは田上家で母親の代わりに務める女性の役です。この映画には食事のシーンが登場します。おかずの一品「かきのもと」は、父親役の三田村邦彦さんや弟役の中山麻聖さんと「キクの花」を調理しました。とってもおいしかったですよ。



作品に溶け込むことができた
と喜んでいました。

私は尚という、母を亡くし父親と弟を母の代わりになつて支えていく女性を演じさせていただきました。家族っていいなと、改めて感じることもできる心暖まる作品になりました。

この映画で、燕市や新潟県のすばらしさを再発見できると思います。ぜひ、皆さんでご覧ください。



▲新潟特産「かきのもと」も映画に登場

▼スタッフとの打ち合わせは入念に行われる



▲母代わりで食卓の中心に座る尚役の原さん

ムダのない行政サービスの実現に向けて

わたしが4月から所属している企画財政課は、組織機構の改編によって今年度から新設された部署です。市の財政状況を踏まえ、より実効性のある施策を立案するため、各部署の横断的な取り組みの促進や全庁的な視点から各部署の支援を行っています。

わたしの主な担当業務は、市長・副市長以下、部署長で構成する「経営会議」や職員プロジェクト



企画財政部企画財政課 主事
五十嵐 康紀
いからし・やすのり
人事交流事業により、新潟県から燕市に派遣。

チームの運営補助、そして「市の行政改革に関すること」です。

行政改革の目的って？

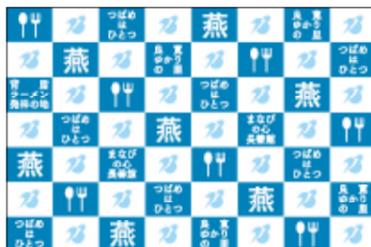
行政改革は、現在の行政運営を見直し、ムダのない効率的な運営が行えるよう、また、それによって新たな財源を生み出すように取り組むものです。今では、全国の地方自治体でさまざまな行政改革の取り組みが行われ

を進めています。後期実施計画では、「財政の健全化」・「行政サービスの向上」・「組織風土の改革」という3つの基本となる柱立てを定めた中で、市を取り巻く社会・経済情勢の変化や、新庁舎への移行などを踏まえ、行政改革に関する取り組みの重点化を図ることとしています。

行政改革の効果もあるもの！

行政改革は、市民の皆さんの利便性向上や、行政サービスの向上が伴わなければ効果があつたものとは言えません。

策定を進めている後期実施計画の中では、窓口での手続きに関する利便性の向上など市民目線で



▲市長記者会見のバックパネル

の行政サービスの提供を推進していくこととしています。

市の発展のため、また、市民の皆さんの期待に応えられるよう、これからも行政改革を進めてまいります。

左のイラストは、市長の定例記者会見などで使われているバックパネルの模様です。

この一枚に「燕市」の特徴がギュッと詰まっています。